

岡崎市議会議長 様

支出番号

議員名

山崎 泰信



下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 旅 行 報 告 書

令和2年 4 月 30 日提出

活動年月日	令和元年 7 月 2 8 日（日）～令和元年 7 月 3 1 日（水）		
氏名	山崎 泰信		
用務先 及び 内 容	1	用務先	福島県 会津若松市
	7 月 2 8 日	内 容	会津若松市歴史資料センター「まなべこ」について
	2	用務先	福島県 会津若松市
	7 月 2 9 日	内 容	会津若松戊辰150周年記念事業・鶴ヶ城の復元等について
	3	用務先	岩手県 盛岡市
	7 月 3 0 日	内 容	コンベンション施設・支援施策について
	4	用務先	青森県 青森市
	7 月 3 1 日	内 容	森林行政・第6次産業化について
備 考			



〈政策調査報告書〉

視察日：令和元年7月28日（日）

視察先：福島県会津若松市

視察内容：会津若松市歴史資料センター「まなべこ」について

視察者：山崎泰信・蜂須賀喜久好

〈会津若松の概要〉

江戸時代は、会津松平藩の城下町として栄え、筋違いの道路や蔵造りの街並みなどに往時の面影を残す。

白虎隊や戊辰戦争に象徴される鶴ヶ城や飯盛山など名所・旧跡が残り、多くの観光客が訪れる。酒・漆器等の地場産業、IC関連先端産業が集積する工業都市でもあります。

04年11月に北会津村、05年11月に河東町を編入。

〈まちづくり〉

（総合計画の策定状況）

策定期間：2017～2026年

将来都市像：ともに歩み、ともに創る「温故創しん」

※「しん」は「新」「心」「信」「真」「進」「清」「伸」等を意味する。

（主要プロジェクト）

会津若松市都市計画マスタープラン（10～32年度）

スマートシティ会津若松（13年度～）

会津若松市まち・ひと・しごと創生総合戦略・人口ビジョン（15年度～）

第三次会津若松市観光振興計画（17～26年度）

企業誘致の推進

第3次ユニバーサルデザイン推進プラン（17～21年度）

〈会津若松市歴史資料センター〉

1. 歴史資料センター

建設年月日 昭和44年7月

建物構造 鉄筋コンクリート造3階建地下1階

施設概要

平成27年9月11日 グランドオープン

1階：展示施設「まなべこ」572.44㎡

常設展示室、学習コーナー、事務室、管理室、企画展示室、講義、学習室

2階：発掘調査出土品等の整理室

3階：「まなべこ」展示室・市史等収蔵庫

開館時間：午前9時～午後5時

休館日：毎週月曜日

入館料：無料

2. 館の基本理念

①基本理念（コンセプト）

「先人に憧れ、郷土に誇りを持つ学びの場」

会津若松市の歴史や文化に親しみ、学べる施設

とし、先人や郷土に対する憧れ、誇りを育みます。

②展示方針

理念の実現に向け展示を行う。

- ・歴史や文化を楽しく学ぶことができる展示
- ・会津の歴史の流れが理解できる工夫ある展示
- ・歴史の苦手な子どもたちに向けた様々な切り口でのプログラムの提供
- ・女性や若者の視点での企画
(県立博物館や天守閣等差別化を図った展示)
- ・実物資料の最大限に活かした展示
- ・先人顕彰

主に江戸時代から昭和までの時代とし、偉人だけでなく、歴史を作ってきた先人、暮らし、関連する人物や場所などをテーマに設けて展示している。

(学習コーナー)

会津若松ビジュアル市史をはじめ、会津の歴史や文化に関連する図書を配置し、閲覧できるスペースを設けるとともに、市史のDVDを鑑賞できるモニターを設置します。

市史研究会によるレファレンスを週2回実施し、市史に対する疑問にお答えする機会を設けている。

3. 取り組み内容

①常設展

年間に2つのテーマで展示を行っている。

平成30年度は、「会津藩士の戊辰戦争―子どもたちに授業で行う―教育の場でもあそびの場でもない。」

令和元年度は、「会津若松市政120年の歩み」

会津若松市の歩みをわかりやすく理解できる展示を行っている。

②企画展

平成29年度「会津の鉄道」「院内御廟展」「鶴ヶ城のヒミツ」「笹山原の遺跡展」「新収蔵・公開資料展」コラボ

令和元年度「早乙女貢と会津土魂」「昭和の図案家青木志満六」「笹山原の遺跡展」「新収蔵公開資料展」ほか

③歴史文化講座

(一般向け歴史文化講座)

30年度は17回、室内外に町歩き、城歩きなど野外の講座も行っている。

(小中学生を対象とした講座)

「まなべこ応援隊歴史文化講座」年に4回開催している。

④活用・連携

郷土学習として、市立の小学校6年生全員が「まなべこツアー」として来館し、会津若松の歴史を学んでいる。

子ども会育成者連絡協議会においても指導児講習会の一環として歴史を学ぶ取り組みを行っている。

教育旅行で訪れる学校は139校(県外55%)となっている。

⑤利用状況

H30年間来館者は、9206名。

〈所感〉

会津若松市の歴史資料を展示しています。入場無料で展示物又はビデオ放映もあり、会津の歴史については、ここだけでもよく理解できると思います。

常設展においては、年間に2つのテーマで子どもたちに授業の場として行っています。

企画展は、65回も歴史文化講座を開催し会津のすばらしさを伝えています。

歴史文化講座には、一般向け講座又小中学生に向けた講座も積極的に進めている様です。

岡崎市にも歴史的に有名な多くの偉人がいます。

歴史や文化に親しみを持って、郷土愛を育む授業や体験をさせていくことが必要であると考えます。

視察日:令和元年7月29日(月)

視察地:会津若松市

視察内容:会津若松戊辰150周年記念事業

鶴ヶ城の復元等について

視察者:山崎泰信 蜂須賀喜久好

<戊辰150周年記念事業>

1. 記念式典

戊辰150周年を記念して、ゆかりの地関係者、関係団体代表者、市民が一同に会した記念式典を開催。

(1)開催日時

平成30年9月22日(土) 13:30～17:00

(2)会場

曾 津風雅堂

(3)開催概要

①第1部

- ・先人顕彰団体表彰
- ・作文コンクール表彰
- ・記念宣言
- ・記念講演(会津松平家14代当主 松平保久氏)

②第2部

- ・郷土芸能
- ・トークショー
パネリスト 松平保久氏、綾瀬はるかさん
鈴木梨央さん
進行 柳澤秀大氏(NHK)

2. 記念誌作成

3. 記念宣言

戊辰150周年を契機として、将来に向け平和等への願いを含めた記念宣言を策定

4. 芸能・文化・歴史に関するイベントの開催

白虎を題材とした「オペラ白虎」の公演

(1)プレコンサート

(2)本公演

(3)パブリックビューイング

5. 講演会シンポジウムの開催

(1)オープニング記念歴史講演会の開催

講師：直木賞作家・中村彰氏

演題：「会津藩の栄光と悲劇の歴史読み直す」

戊辰百五十年目の視点から

(2)歴史シンポジウムの開催

<記念展示事業>

1. 市内戊辰特別展示周遊企画

「戊辰ミステリークイズラリー」

<誘客宣伝事業>

1. 特別番組の制作・放映

会津の「義」をテーマとしたドキュメンタリー番組を制作し、民放BS各局で放送、またYouTubeで動画を配信、海外向けCS放送で英語版を配信。

2. 広告掲載、協賛事業

3. 特設ホームページの開設、運用

4. ロゴマーク・キャッチフレーズの公募・活用

5. 新選組コンテスト

6. 鶴ヶ城天守VRコンテンツARアプリケーション拡充

<機運醸成事業>

1. 県内放映局への特別番組作成補助

2. パンフレット及び、ポスター制作

3. のぼり等作成、設置

4. モデルルートの募集

5. 各種団体事業補助金

<ゆかりの地との連携>

1. 本市ゆかりの地との連携

2. ゆかりの地交流会

＜関連事業＞

1. 鶴ヶ城天守閣収蔵品展・企画展の開催
2. 鶴ヶ城天守閣の市民無料登閣

＜会津若松戊辰150周年記念事業：鶴ヶ城の復元等について＞

戊辰150周年記念事業として、式典、記念誌の作成、記念宣言、イベント、シンポジウムの開催、2部として、記念展示事業、3部として、誘客宣伝事業、4部として、機運醸成事業、5部として、ゆかりの地との連携、6部として鶴ヶ城など、幕末から明治という時代を前向きに生きた会津人の思いに光をあて、郷土の礎を築いた先人を顕彰し、歴史的役割を再認識できる機会をつくりました。

岡崎市においても、徳川家康・志賀重昂、本多光太郎はじめ多くの偉人がいます。

いろいろな機会があるごとに紹介し、各地域でもりあげていくことが必要であるとかんがえます。できることから一つずつ。

＜政策調査報告書＞

視察日:令和元年7月30日(火)

視察先:岩手県盛岡市

視察内容:コンベンション施設・支援施策について

視察者:蜂須賀喜久好・山崎泰信

＜盛岡市の概要＞

南部重信公の詠んだ歌の句「宝の珠の盛る岡山」より「森岡」を「盛岡」と改めたという。

北上平野の北部に位置する県都

江戸時代は盛岡藩の城下町で岩手山などの山並みに囲まれ、市街地には幾筋もの川が流れ、古い町家や街並みが残る。

東北新幹線と秋田新幹線、東北縦貫自動車道、国道などが通る交通の要衝で北東北の玄関口。

地域経済の好循環を促進するための「食と農・ものづくり応援プロジェクト」では、食と農では豊畜産物の高付加価値や販路拡大を、ものづくりにおいては、企業の進出や既存企業の拡充の受け皿となる工場用地不足解消などを進める。

その他、18年度スタートとして、子ども・子育て支援する「みんなが支える子ども・子育て安心プロジェクト、交流人口の拡大を図る「2020あつまる・つながるまちプロジェクト」を展開していく。

＜まちづくり＞

[総合計画の策定状況]

策定時期:2014年

計画期間:2015～2025年

[将来都市像]

ひと・まち・未来が輝き、世界につながるまち盛岡

[主要プロジェクト]

食と農・ものづくり応援プロジェクト（17～19年）

みんなが支える子ども・子育て安心プロジェクト（18～20年）

2020あつまる・つながるまちプロジェクト（18～20年）

まち・ひと・しごと創生総合戦略（15～19年度）

みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン（16～20年度）

<MICEの意義>

MICEは、企業・産業活動や、研究・学会活動と関連している場合が多いため、一般的な観光とは性格を異することが多い。

MICEについて、「人が集まる」直接的な効果はもちろん、人の集積や交流から派生する付加価値や意義化について認識を高める必要がある。

※MICEとは、ミーティング、インセンティブ、コンベンション、エキシビジョン。

開催地における高い経済波及効果やビジネス機会、イノベーションの創出などが期待される。

(1)ビジネス・イノベーションの機会

我が国に集うことは、日本の関係者と海外の関係者のネットワークを作り、新しいビジネスを呼び込むことになる。

(2)地域への経済効果

会議の開催、宿泊、飲食、観光等の経済、消費活動の裾野が広く、また滞在期間が長いので、一般的な観光客以上に周辺への経済効果が期待できる

(3)競争力向上

都市の競争力、ひいては国の競争力向上につながる

<MICE助成金交付>

(趣旨)

国際会議等のMICE誘致を推進し、交流人口の拡大と
広域・観光の振興を図る。

予算の範囲内においてMICE助成金を交付する

(定義)

「MICE」とは、学芸、大会、会議、シンポジウム、研究会、スポーツ
大会等。

(1)学会

学術研究団体が主体となって開催する特定のテーマや課題
に対して討論を行うもの。

(2)大会

特定の関係者が集まって行う集会。

(3)会議

特定のテーマ等について、関係者が意見交換や相談を行い、意思決定を
行う集まり。

(4)シンポジウム

広く聴衆を集め、特定の課題に対して意見の発表及び討論を行う。

(5)研修会

知識及び技能の普及もしくは向上のため開催する学習会

(6)スポーツ大会

スポーツの振興、競技技術向上のため開催する競技会

(助成金の区分等)

(1)開催支援助成金

開催運営に係る会場費、講師料等経費の助成

(2)歓迎おもてなし助成金

開催に伴うレセプション等におけるアトラクション派遣等の経費の一部助成するもの

(助成対象MICEの指定)

(助成金の決定)

(助成金の交付)

(調査など)

<盛岡MICE開催助成金制度について>

・開催支援助成金

全国大会の場合

開催される期間が2日以上の全国大会で参加者総数が200以上であること

・交付金額

大会参加者数区分により、該当する額

(20万円～500万円)

・ 歓迎おもてなし助成金

全国大会

2日以上全国大会でレセプション参加総数が100以上であること。

・ 交付金額

レセプション等におけるアトラクション派遣に関わる出演料、講師等の経費の総額の2分の1以内

[観光コンベンション協会の支援]

- ①観光パンフレット
- ②コンベンションバック
- ③ネームプレートの貸出
- ④来賓用リボンの貸出
- ⑤観光DVDの貸出
- ⑥歓迎ポスター作成
- ⑦コンベンションサポーターの派遣
- ⑧その他コンベンション開催に伴うノウハウの提供など

MICEは、ビジネスや学問的な催しなどで人が集まるものの総称で

Mは、(Meeting)企業などのミーティング

Iは、(Incentive)研修旅行など

Cは、(Convention)学芸、総会、学術会議など

Eは(Exhibition/Event)文化・スポーツイベントなど

4つの頭文字をとってMICE(マイス)

MICEは、イベントなどの名前ではなく総称であります。

ex)G20もマイスの1つであり、Conventionに当たります。

各国から首脳陣が集り会議をするものでしたが、それによって開催地の観光や食べ物を紹介をすることができました。

MICEを開催するためには、場所や宿泊場所の確保、食べ物や飲み物の用意など、多くの準備が必要となります。ようするに、主催者側と参加者側の両方に大きな消費が見込めます。

国内の参加者はもちろんですが、その分野の専門家たちが集まることによって、人的ネットワーク、知識情報の共有ができます。

そういった交流により、単純な経済効果だけでなく、そのあとのビジネスや利益にもメリットがあります。

今岡崎で考えているのは、コンベンション施設の整備基本計画で、民間の資金やノウハウを生かした公民連携により整備を目指すということです。

基本目標として「コンベンション機能をいかした観光産業都市の創造」「仕事・暮らし・健康を応援する生きがい交流空間の創造」「乙川エリアの価値を高める魅力的な都市空間の創造」です。

主な機能として、コンベンション施設（公共機能）では、民間との複合化・ホールにおいては、1200㎡イス1000人、ホテル機能（民間）においては、利用客には歴史を感じさせる。

上質なおもてなし機能など、たいへんたのしみであります。

2019年度事業者募集、2020年設計、2021年建設工事は2年間かかる、2023年春に開業予定（4年後の春）

MICEについても同じように計画をしていって、開催助成制度など早くから研究して、観光コンベンション協会や誘致の推進機構など立ち上げていく必要を感じます。

<政策調査報告書>

視察日：令和元年7月31日

視察先：青森県青森市

視察内容：森林行政 第6次産業化について

視察者：山崎泰信 蜂須賀喜久好

<青森市の概要>

県のほぼ中央に位置し、江戸時代より本州と北海道を繋ぐ交流と物流の要衝として発展。

県都として、行政や経済の中枢を担うための高度な都市機能や利便性の高い交通機能などを有する。

三内丸山遺跡やねぶた祭りに代表される歴史や文化の薫り高いまち。豊富な地域資源を存する都市として更なる交流人口の拡大を図り、新ビジネス創出などにより、産業・経済の発展や地域活性化に向けてチャレンジし続ける街「挑戦を誇れる街」への取組を更に前に進めるため、限られた資源を最大限有効に活用しながら、「しごと創り」「ひと創り」「まち創り」「やさしい街」「つよい街」「かがやく街」の6本柱を推進している。

<まちづくり>

[総合計画の策定状況]

策定時期:2010年

計画期間:2011~2020年

[将来都市像]

花と縁と人が共生し地域の絆で築く

市民主役の元気都市あおもり

[主要プロジェクト]

青森市成長戦略

「人口減少・地域経済縮小の克服」プロジェクト

「国内外とつながる」プロジェクト

「食でいきいき」プロジェクト

「緑を守り引き継ぐ」プロジェクト

「雪との共生」プロジェクトなど

青森市木材利用促進計画

①目的

青森市内の公共建築物の整備において、積極的に地元産材を利用促進するため、公共建築物等における木材利用の促進。県の基本方針「青い森県産材利用推進プラン」に即して必要な事項を定める

②公共建築物等における木材の利用の施策に関する基本事項

③地元産材の利用を促進すべき公共建築物等

④公共建築物等における地元産材の利用の目標

⑤その他地元産材の利用促進に関し必要な事項

⑥必要に応じて、青森市政地元材利用促進庁内連絡会議(仮称)を設置し、公共建築物における地元産材の需要拡大への取組を進める

6次産業に向けた取組

①6次産業とは

農林水産業者が自ら生産・加工・流通販売を一体的に行う経営形態や2次産業・3次産業と連携した営業形態を創りだすこと。

1次産業(生産部門)、2次産業(加工部門)、3次産業(流通販売部門)の、1、2、3を掛けて、6になることから6次産業という。

②6次産業に取り組むメリット

農産物の価値を高めることで、収益性の向上と所得の増大が見込まれる。

又、地域一体の取り組みにより、雇用創出と地域の活性化が見込まれる。

6次産業化法に基づく「総合化事業計画」を作成して

国の認定を受けると様々なメリットがある。

[生産者6次産業化支援事業]

(事業内容)

農林水産業経営の多角化と所得向上及び農林水産物の高付価値を図るため、農林水産業者が行う、農商工連携による「地域の6次産業化」に向けた初期段階の取組の支援・

・支援する取組

①地域の6次産業化スタートアップ支援事業

農林水産物を利用した新商品の開発等の6次産業化を実践

農林水産物の高付加価値化、経営の多角化、所得の向上、雇用創出などにつながる取組を支援する事業

②機械施設整備事業

実施に伴う機械・簡易な施設等の購入借用及び、改良を支援する事業

③農山漁村女性起業育成事業

起業、施設の整備、新商品の開発支援

- ・補助率

補助対象経費の4分の1以内の額

(上限25万円)

(主な実績)

- ・農産物を利用したベーグル等の加工販売

→規格外農産物を活用したベーグルなどの開発

- ・バサラコーンフリーズドライの開発

→常温保存が可能な加工品の開発

- ・規格外トマトを活用した加工品の開発

→「トマト酢」の開発

- ・りんご加工品の開発

→ふじを利用した無添加煮りんごの開発

- ・規格外トマトを活用した加工品

→トマト味噌の開発

(課題)

申請件数の伸び悩み

H26以降認定者なし

(方向性)

開発した商品の販路開拓支援

6次化のメリット、補助制度の周知

[所感]

農山漁村女性起業育成事業は女性活躍を場を設ける点については、良い事業であると思うが、補助金の上限25万円かつ補助対象経費の4分の1以内であるのでなかなか厳しいと感じた。これでは挑戦する人は、なかなかでてこない。

岡崎で進めるなら、補助金をもっと上げるべきだし、補助経費も4分の3くらいする。6次産業をもっと女性にとって魅力あるものにすることが必要。